

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 9月 2日(金)

通算 253号

◇ いいね！ 夏休みの課題

<8/30(火) テレビ朝日系列「グッド！モーニング」 ネットニュースより>

夏休みが終わり、新学期が始まるこの時期、例年、心や体に不調を抱える子どもたちが増える傾向にあります。そんななか、ある男性が以前、中学校の教師をしていた時に体験したエピソードが反響を呼んでいます。

新学期を前に開かれた職員会議で、夏休みの宿題ができていない生徒への対応を、教師らが話し合っている時でした。

校長が、最後に「一つだけお願いします。宿題を出せない生徒を責めないで下さい。先生方が怒る気持ちも理解できます。でも、提出する日を約束したら、許してあげてほしいです。初日は、元気に来てくれただけで、十分としませんか」と発言したのです。

男性はこの言葉を「まさに“神発言”だった」と振り返ります。

親や教師は、子どもたちの声に耳を傾け、サポートしてあげてほしいと話す男性のツイートには、8万近い「いいね」が付いています。

確かに心温まる話である。

自分が担任をしていた時のことを問われると、片腹が痛くなり、反省しかない。

けれども、現在の岡崎市の学校現場では、さらに言うなら地域を問わず、現在の日本の学校現場においては、特に驚くべき話ではない。どの学校もそうした共通認識の下で、各校の担任たちは 2 学期初日に温かく子供を迎えたはずである。

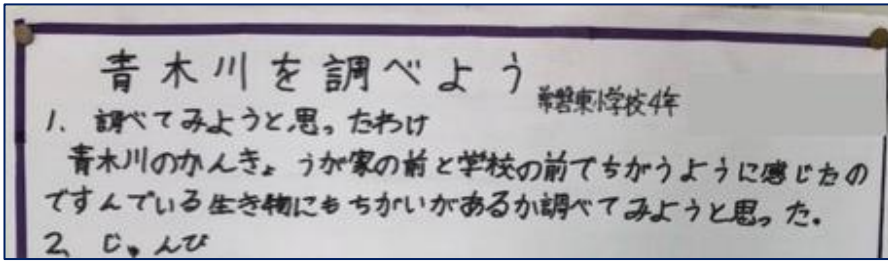
それでもニュースとして大きく取り上げられるのは、教師や学校の認識が昔から大きく変化していることが、まだまだ社会に浸透していないのであろう。

これは学校や校長の責任でもある。学校は現況を地域に発信するだけでなく、目に見えにくい大切な変化、見逃されがちな価値ある変化を伝えていく学校発出の発信の必要性を考えさせられた。

さて本題。本校は「夏休みの宿題」ではなく、【夏休みの課題】である。【課題】だから、宿題では掲げにくいその子なりの目標がある。この部分が大事である。

そして【課題】からは、その子の学びの姿が見えてくる。最も顕著に表出される課題の代表的なものは【理科の自由研究】だ。B 紙に書かれた文字の字間・行間に子供の意欲が見えてくる。表題を見ただけで歩く足が止まり、冒頭の「やってみようと思ったわけ」でぐいと引き込まれる。児童作品をいくつか紹介しよう。

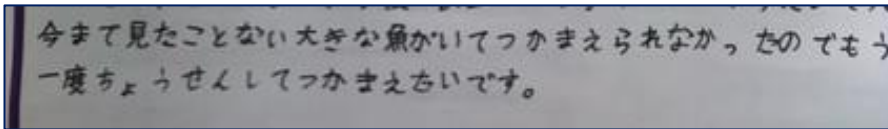
真っ先に教室に掲げられた<4年生自由研究>の特集。



理由がいい。鋭い観察力とEさんの感性がいい。

既習の青木川に関する体験的で生きた学びが、この研究の背景にあるのだろう。

そして、研究の締めは「もう一度挑戦」とある。次なる意欲が芽生えた。



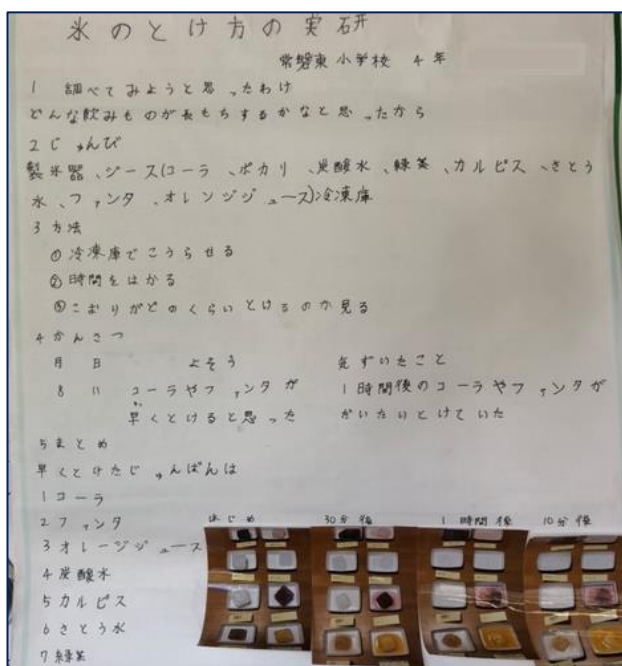
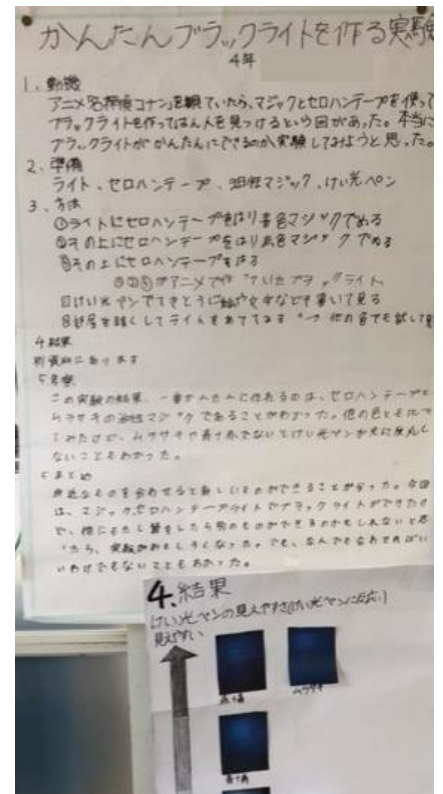
自由研究が次につながる真の学びであることをこの一文が物語っている。

➡右の自由研究は大作だ。B紙一枚ではまとめきれず、用紙を貼り足してまとめきった。実は、まだまだ下につながる。写真付きで、研究の成果も分かりやすい。

Nさんの研究テーマは「かんたんブラックライトを作る実験」とある。

オリジナル研究だけでなく、研究のきっかけが面白い。

「アニメ【名探偵コナン】を観ていたら、マジックとセロハンテープを使ってブラックライトを作っはん人を見つけるといいう回があった。本当にブラックライトが簡単にできるのか実験しようと思った」のがきっかけだ。研究対象はどこにでもある。目をつけるのが感性であり、自分で目をつけたから追究できるのだ。そして作り上げるとは、立派！



「氷のとけ方の実験」とあるが、身の回りにある様々な液体を凍らせ、その溶け方を観察し、まとめたのがKさんの自由研究。

よくありそうだが、最後の考察がいい。

「本当は塩水もあったけど、冷とう庫に入れても、こおりませんでした。なので、塩水をこおらせて、とかしてみたいです。」

素晴らしい気付きである。溶け方を調べようとしたら、凍らないものが出てきた。塩の量に秘密があるかもね。そして流氷は塩水だ。来年は継続研究が見られるかも。